

## 川上から川下の食品関連業者が共同商品開発を行う 「コラボレーション・スクエア」の新設

# 株式会社タカハシ包装センター

## コラボレーション・スクエア「しまねキッチン」による、地産地消と外貨獲得！ 地元の地域資源の魅力を創造しよう！！

### 概要

大手食品メーカーなどでは、商品開発を専門とする部門や設備が完備されているが、中堅・中小企業では専門的な部門や設備を準備できる投資環境でないところがほとんどである。そんな中、食品トレーなどを販売する同社では、自社内の一部にテストキッチンを設置し、生産者（漁業者・農業者）、食品メーカー、地元スーパーマーケットなどが一体となり商品開発や売り場づくりを研究できる環境をつくり、食品流通の活性化を図ることとした。

### 事業内容

#### 1. 本事業取り組みへのきっかけ

##### ○提案方法の検討から

以前から、従来のパッケージ品の卸売だけでは付加価値が低く、パッケージの果たすマーケティング機能をより発揮させることは出来ないか考えていた。そこで、様々な食材や食品に関する開発やテスト機能を持つ「しまねキッチン」を設置し、商品開発、売り場開発から携わることで、顧客の課題解決に貢献することとした。

#### 2. 本事業の目的

##### ○地元の食品関連業者が集まれる場所づくり

大手小売店などでは、専門的な商品開発の場所などを用意しているが、地方のスーパーなどにおける調理場所は、日々の商品を調理することで手一杯である。通常の会議室では不可能な、直接調理、仮想売り場

を活用し商品や売り場開発ができる場所をつくることを目的とした。

#### 3. 本事業の内容とポイント

##### ○必要最低限の環境づくり

調理に必要な機材、実際の売り場を模した場所をつくることで、展示方法の検討を行うことができるよう、機材の内容について検討を重ねた。

##### ○活用方法の検討

同社の営業所がある益田市と本社の浜田市について先行して設置することとした。松江市内の設置については、場所の確保が出来ず、本事業としては行うことができなかった。益田市に設置したキッチンは、同社の取引先スーパー本店に近く、主に同スーパーの商品開発相談の場所として活用を試みた。しかしながら、本社浜田市のキッチンについては、活用方法の再検討が必要となった。

##### ○フードコーディネーターによるキッチンの活用

地元食材を生かした料理方法の開発を行うため、地元で活動するフードコーディネーターの協力を得た。また、キッチンの使い勝手などを点検していただいた。

#### 4. 本事業の成果

##### ○テストキッチンの完成

益田市、浜田市の同社内にて『コラボレーション・スクエア しまねキッチン』の完成に至った。また、本事業にて、その想定していたとおりの機能が発揮されたことを確認できた。調理設備と展示設備を有しており、食品の開発から模擬展示までを

株式会社タカハシ包装センターは、食品業界の川上である生産者から食品メーカー、川下のスーパーマーケットなどに向け、食品トレー・フィルムなどのパッケージ全般及び付随する各種機器を販売している。島根県内に4拠点構える他、山口県の下関市、長門市や佐賀県などに拠点を構えており、従来から各拠点にて行なっている地域密着型営業に加え、最近では大都市圏へも進出している。



代表取締役社長  
高橋将史

#### 株式会社タカハシ包装センター

〒697-0017  
島根県浜田市原井町3050-34  
TEL 0855-22-4503  
FAX 0855-22-4586  
URL <http://www.takahashi-hc.co.jp>  
創業/昭和50年11月  
資本金/35百万円  
社員数/170名

行うことが可能となった。

#### ○食品アイデアの集積場の下に

ある食材について集中的に検討し、実際にその場で調理することができ、更に様々なアイデアを実践することができる。業者間問わず集まることが可能となり、新商品の提案などが活発に行われた。

#### ○複合的展示時会場へ

パッケージのみならず、食材企業・食品企業などとの共催によるミニ展示会を開催し、パッケージに留まらずより幅広い顧客の課題解決の場を提供するとともに、顧客理解にも繋がった。

## 5. 成果の事業化に向けて

#### ○更なる外貨獲得に向けて

大手量販店や食品スーパー、地元食品メーカーなどとの商談の場としての活用を

想定している。徐々にではあるが、来場が増加している。各地方でこうした設備を設置している企業は非常に珍しく、大手スーパー担当者の話によると「商品開発がスムーズに進む」と驚きとともに、喜ばれている。

こうした大都市圏の意見を取り込みながら、商品開発に活かされることが期待される。パッケージ納入だけでなく、取引先企業の販路開拓支援としての動きにも期待が持てる。

#### ○地域活性化の原点として

地域の食文化を持ち寄ることから始まる、新たな食文化の開発や情報発信を行う原点の場所になる。多くの事業者や企業による直接の交流が、新たな地方食文化の創生に繋がることが予想される。



しまねキッチン@益田



ディスプレイのシミュレーションが可能

## 展望

予てからこうした設備を構えたいと考えていたものの、投資効果の観点から踏みとどまっていた。今回このような補助金があったこと、また地域における取引先の地産地消への取組を見る中で思い切って取り組んでみた。取引先からも一定の評価を得ているが、今後ソフト面での機能強化が必要と感じている。